

## 平成29年度特許情報普及活動功労者表彰

# 一般財団法人日本特許情報機構理事長賞 【特許情報活用研究功労者】

元 株式会社日立技術情報サービス／株式会社日立製作所  
大本 祐嗣

### 功 績

株式会社日立製作所、株式会社日立技術情報サービス取締役社長、テクノサーチ株式会社常務執行役と様々な立場から特許情報業界へ貢献されてきました。

1982年から日本知的財産協会(JIPA)の委員会活動に積極的に関与されました。自社内でも検討課題として取り組んできた特許情報を経営にいかにして活用するかをテーマに検討を実施し、その成果は論文等でも発表されました。1984年からは特許情報委員会副委員長として、1989年からは委員長代理として、委員会を主導され、特許情報の活用研究に積極的に取り組まれました。1990年には、海外企業の特許情報の活用状況を調査するために、欧米企業調査団を結成され、団長として調査を主導されました。1か月をかけてシーメンス、フィリップス、IBM、デュポンなど多数の欧米企業を訪問され、調査結果は報告書として取りまとめられ、知的財産協会内で共有されました。

特に、1970年頃から特許の有償開放戦略を高度化していくために、特許情報を活用することを企画されました。当時知られ始めた特許マップをいち早く活用する方針を打ち出し、競合と自社の特許マップを用いて比較する手法を導入され、独自に作成方法の検討を進められました。その結果、競合と自社の特許を分析することで、競合のポジションを明らかにして、有償開放戦略の成功確率を高められました。これらの活動は、我が国の特許情報分析の走りとなるものでしたが、社内では特許係争や特許クロスライセンス契約にも活用され、ライセンス料の増加、引いては収益の効率に寄与しました。

また、日立製作所の先進的な特許管理手法について、セミナー等で講演されるなど情報発信にも精力的に取り組まれました。

この度の受賞は、身に余る光栄と感謝申し上げます。特許公開制度発足と共に、情報の検索方法や手段、道具などが脚光を浴びる中で、情報の管理とは如何にあるべきか、情報の活用はどうあるべきか、どうしたらサーチャーが報われるか等々を、JIPAの情報委員会で検討したのが事の始まりでした。

5年前、腰痛の悪化を機に、単身赴任での仕事に見切りをつけ、毎日が日曜日のような生活をしている身としては戸惑いと驚きを感じましたが、長年特許情報に携わって来たことが評価されたものと感謝しつつ、私を支えて頂いた諸先輩、関係者の方々に改めてお礼を述べる機会を与えて下さったものとお礼申し上げます。

